

## 阿呆物語

Der abenteuerliche Simplicissimus (1668年)

グリンメルスハウゼン Hans Jakob Christoffel von Grimmelshausen  
(1622頃～76年、ドイツの作家) [邦訳] 望月市恵訳、岩波文庫

三十年戦争真っ只中のドイツ。森の中の農家にも、戦争は忍び寄っていた。突然現れた兵隊によって一家は離散し、主人公は森の中で出会った隠者に育てられる。ジンプリチウス（無知な人という意）と名付けられ、読み書き、キリストの教えを授かる。隠者の死後、森を出るが、町で捕えられる。だがその町の司令官が隠者の義兄であることが分かり、彼は侍童になり、世間が聖書で戒められていた事の陳列棚であることを知る。(第1巻)

無知を装い道化者となり世間を批判するジンプリチウスは、<sup>さら</sup>攫われるが逃げ出し、マクデブルクを包囲するザクセン選帝侯軍の野営地に魔法によって飛ばされる。ここで終生の友となるヘルツブルーデルに出会う。出世に無関心だったジンプリチウスも兵士になり、いつしか野心を抱くようになる。(第2巻)

名誉と評判を高めることに気を取られ、キリストの教えを忘れるジンプリチウス。ゾーストの狩人と敵に恐れられ、味方には羨望の的。しかし、いつまでも幸運は続かない。敵スウェーデン軍の手に落ちる。とこ

ろが彼がかつて敵に示した人道的振る舞いによって、宗旨替えを勧められる。彼はあくまで固辞するが、娘もとが因で宗旨替え。預けた財産を受け出しにケルンへ向うが、商人は破産し夜逃げ。弁理士が彼に手を差し伸べるが、それがまた躓きの石。(第3巻)

フランス貴族の子弟の供として体良くパリへ厄介払いされる。その容姿とリュートの腕前でパリ社交界の寵兒となり、貴婦人への怪しげな奉仕で大金を手にする。こっそりパリを逃げだすジンプリチウス。途中病に倒れ、金は盗まれ、美貌もなくし、香具師、ならず者へと身をやつす。再び大金を手にしたところ、乞食となつた親友に再会。(第4巻)

友人と巡礼に出るが、これまでを悔い改めての気持ちはない。友人大事と思えばこそその巡礼だった。だからすぐさま軍隊復帰、戦に勇んで友共々負傷し、温泉療養。友は落命、彼は再婚。そして父との再会で、出



「阿呆物語」口絵 (1669年)